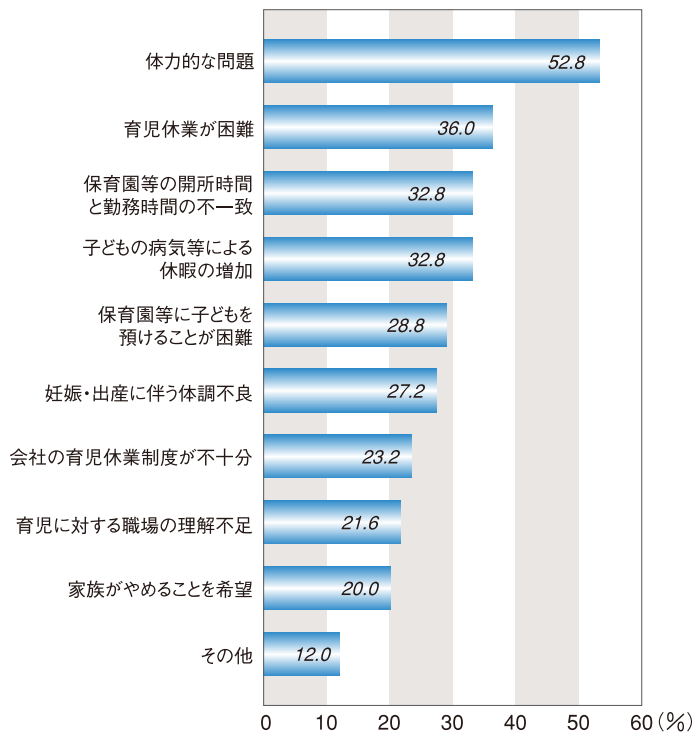


2. データでみる「仕事と生活の調和」の必要性(3)

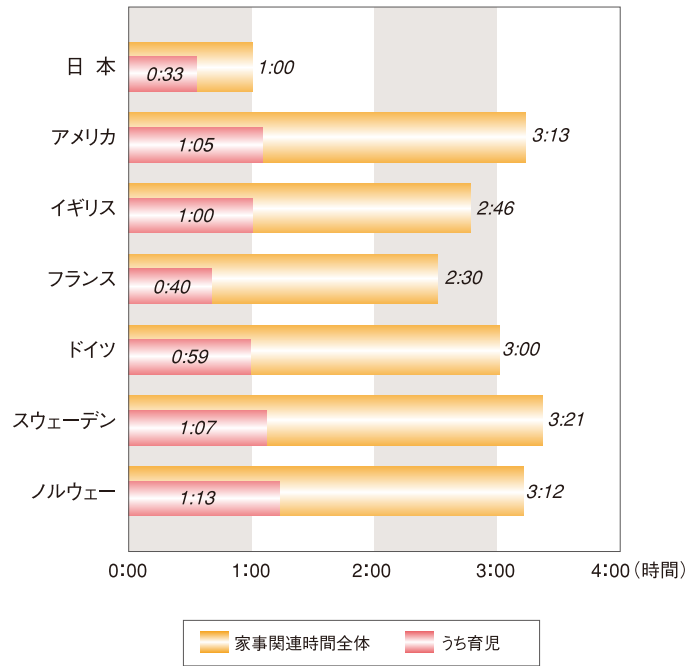
【両立が難しかった具体的理由】

(「仕事を続けたかったが仕事と育児の両立の難しさでやめた」と回答した者)



資料:日本労働研究機構「育児や介護と仕事の両立に関する調査」(平成15年)

【6歳未満児をもつ男性の家事・育児時間】



資料:Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men"(2004), Bureau of Labor Statistics of the U.S."America Time-Use Survey Summary"(2006),総務省「社会生活基本調査」(平成18年)

Point

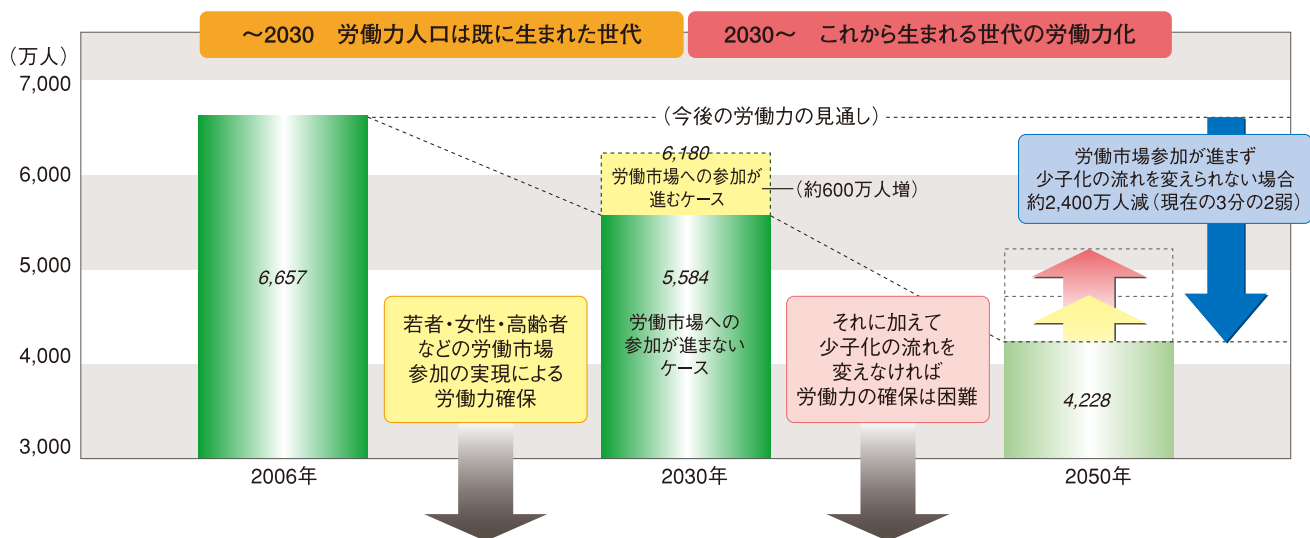


出産前に仕事をしてきた女性の約7割が出産を機に退職しています。仕事と育児の両立のための障壁としては、育児休業を取りにくいことのほか、育休復帰後のフルタイム勤務では体力が持たない、保育所の開所時間と勤務時間が合わないといった理由が挙げられます。

女性は配偶者・パートナーの家事・育児への協力を強く望んでいますが、日本の男性の家事・育児時間は他の先進諸国と比べて非常に短いのが現状です。

4 労働市場参加が進まない場合の労働力の推移

【今後の労働力の見通し】



二者択一構造を解決するためには、「仕事と生活の調和」が必須

資料:2006年は総務省統計局「労働力調査」、その他は、独立行政法人労働政策研究・研修機構「労働力需給の推計」(2008年3月)